

Vol.3 劇中の和太鼓演奏で魅せた河乃裕季さんの鮮やかな印象！

『～幻に心もそぞろ狂おしのわれら～将門』

紀伊国屋サザンシアター

March 30, 2006

和太鼓奏者・河乃裕季さんが劇中での演奏と、私が影響を受けた劇作家・清水邦夫作とあって大変楽しみに、新宿の「紀伊国屋サザンシアター」に向かいました。

会場の「サザンシアター」も初めてなら「劇団・夜想会」の芝居も初めて、加えて初 日拝見というのも新鮮さがあって良いものです。

清水邦夫の70年代作品は当時の社会状況と密接なイメージもあり、台詞を聞きながら懐かしき感慨もありました。

お芝居の方は前半が俳優の息があっていないのか少々希薄でしたが、後半に進むにつれ作品の持つエッセンスは伝わってきました。清水邦夫作品の台詞は俳優が咀嚼して肉体化していないと、やや滑稽になるところがあります。詩情と叙情に感情が伴わないといけないのですがその意味では水準に達していた俳優との差が歴然としていました。

河乃さんの演奏は芝居のポイントごとに的確な演奏で芝居を盛り上げ、終幕では、原田大二郎が演じる戦い傷つき佇立した「平将門」のシルエットとコントラストした緊張の中で平太鼓(三尺八寸)を打ち放ち、静かに強く「将門」の無念と夢を響かせ鮮やかな印象を残して見事でした。